

外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

1. 基本情報

令和元年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団		
所在地	新潟市中央区西船見町5932番地445		
代表者(職・氏名) (所属・職)	代表理事 理事長	電話番号	025-222-7500
	高橋 道映	ホームページ	http://www.marinepia.or.jp/kaiyoukasen
市所管課	文化政策課	電子メール	kanri@marinepia.or.jp
基本財産 (基本金)	10,000 千円	設立年月日	平成28年3月15日
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	10,000 千円	100.0 %
		千円	%
		千円	%
		千円	%
		千円	%
設立目的	新潟市を中心とする海洋・河川文化（海、河川をはじめとする水辺環境とそこに生息する生物などの影響を受けて発展してきた、人々の暮らし、生活様式、価値観等）の現況把握、歴史的背景及び保護継承を通して、社会における海洋・河川文化の重要性・関係性を啓発し、もって新潟市の文化醸成に寄与するとともに、地域社会の持続的発展に寄与することを目的とする。		
経営理念 経営方針	【経営理念】 新潟市水族館条例に則り、「水族館は地域社会の持続的発展に不可欠な環境保全意識の啓発、醸成の場としての社会的基盤、即ち公共施設である」との理念のもと、水族館を「自然と人とを結ぶメディア」と位置づけ、設置者と市民の間における「水族館運営の専門家」として、また、市民と市民社会を繋ぐ「水生生物と環境に関する情報発信基地」として、運営を行う。 【経営方針】 ・水生生物と環境について正確な知識を普及する ・新鮮な感動と体験 ・自然保護、環境保全のきっかけづくり ・施設、設備への最善の対応をする		

2. 主要事業

事業名①	海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業						
事業概要	新潟における海洋・河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、海洋・河川文化及び海洋・河川等、人との関わりの大切さを後世に継承し、併せて地域社会の持続的発展の担い手を育む。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度（予算）
公益事業	-	収入額	千円	-	594,261	605,272	612,735
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
海洋・河川文化の普及啓発（体験学習）	R1	回	6				
	H30	回	5	5	計画通り		
	H29	回	-	4	-		
	H28		-	-	-		
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
海洋・河川文化の普及啓発（講演会）	R1	回	2				
	H30	回	3	4	ほぼ計画通り		
	H29	回	-	4	-		
	H28		-	-	-		
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
海洋・河川文化の普及啓発（各種施設との連携）	R1	件	未定				
	H30	件	未定	55	実習・体験学習など受け入れ業務が中心のため計画がたてられない		
	H29	件	-	49	-		
	H28		-	-	-		

活動指標④	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の 調査研究 (研究発表)	R1	件	未定		
	H30	件	未定	11	年度によって異なる
	H29	件	—	7	—
	H28		—	—	—
活動指標⑤	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の 調査研究 (各種会議)	R1	件	未定		
	H30	件	未定	30	年度によって異なる
	H29	件	—	26	—
	H28		—	—	—
活動指標⑥	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の 調査研究 (共同研究)	R1	件	1		
	H30	件	1	1	計画通り
	H29	件	—	1	—
	H28		—	—	—

活動指標⑦	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の 保護保全 (生息域内保全)	R1	回	8		
	H30	回	8	6	ほぼ計画通り
	H29	回	—	5	—
	H28		—	—	—
活動指標⑧	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の 保護保全 (連携調査)	R1	回	6		
	H30	回	8	4	調査依頼に応じて減少
	H29	回	—	7	—
	H28		—	—	—
活動指標⑨	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
海洋・河川文化の 保護保全 (生物調査)	R1	回	未定		
	H30	回	未定	16	漂着生物は予測できないため計画できない
	H29	回	—	9	—
	H28		—	—	—

2. 主要事業

事業名②	海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業						
事業概要	新潟の自然環境とそこに生息する水生生物の展示を基礎としながら、多種多様な環境の生物を展示し、各種体験型プログラムを実施することで、市民が海洋・河川や水生生物などに親しむ機会の充実などを図り、海洋・河川に関心を持つきっかけとなる機会を創出する。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度（予算）
公益事業	-	収入額	千円	-	事業(1)に含む	事業(1)に含む	事業(1)に含む
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
水生生物に関する知識の普及振興（いきもの教室）	R1	回	10				
	H30	回	10	11	ほぼ計画通り		
	H29	回	-	13	-		
	H28		-	-	-		
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
水生生物に関する知識の普及振興（企画展示）	R1	回	4				
	H30	回	4	6	企画展示室以外での企画展を開催したため増加		
	H29	回	-	5	-		
	H28		-	-	-		
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
水生生物に関する知識の普及振興（参加型イベント）	R1	回	5				
	H30	回	5	5	計画通り		
	H29	回	-	4	-		
	H28		-	-	-		

活動指標④	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物に関する知識の普及振興 (記念日イベント)	R1	回	2		
	H30	回	1	1	計画通り
	H29	回	—	1	—
	H28		—	—	—
活動指標⑤	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物に関する知識の普及振興 (特別ガイドツアー)	R1	回	1		
	H30	回	1	1	計画通り
	H29	回	—	2	—
	H28		—	—	—
活動指標⑥	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物に関する知識の普及振興 (大人向け教室)	R1	回	1		
	H30	回	1	1	計画通り
	H29	回	—	1	—
	H28		—	—	—
活動指標⑦	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物の収集、飼育、展示 (飼育展示)	R1		600種30,000点		
	H30		500種20,000点	600種30,000点	生物収集活動の増加などにより種類、展示数ともに増
	H29		—	500種20,000点	—
	H28		—	—	—

活動指標⑧	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物の収集、飼育、展示 (常設解説)	R1	種類	7		
	H30	種類	8	8	計画通り
	H29	種類	—	8	—
	H28		—	—	—
活動指標⑨	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物の収集、飼育、展示 (生物収集)	R1	回	52		
	H30	回	23	97	生物収集活動の強化により増加
	H29	回	—	18	—
	H28		—	—	—
活動指標⑩	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由
水生生物の収集、飼育、展示 (生物交換)	R1	回	14		
	H30	回	14	13	ほぼ計画通り
	H29	回	—	10	—
	H28		—	—	—

2. 主要事業

事業名③	施設管理に付帯する事業						
事業概要	施設利用者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置を行う。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度（予算）
収益事業	-	収入額	千円	-	66,565	60,767	56,393
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
レストラン・軽食の設置	R1	箇所	4	-	-		
	H30	箇所	3	4	期間限定：軽食1店増加 ※原則各週末、祝日に設置 ただし繁忙期（GW、7～9月は毎日設置）		
	H29	箇所	3	3	-		
	H28		-	-	-		
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
売店の設置	R1	箇所	1	-	-		
	H30	箇所	1	2	期間限定：1店増加 ※原則各週末、祝日に設置 ただし繁忙期（GW、7～9月は毎日設置）		
	H29	箇所	1	2	期間限定：1店増加 ※原則各週末、祝日に設置 ただし繁忙期（GW、7～9月は毎日設置）		
	H28		-	-	-		
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
自動販売機等の設置	R1	箇所	17	-	-		
	H30	箇所	17	17	計画通り		
	H29	箇所	17	17	-		
	H28		-	-	-		

3. 組織等の状況

(1) 役職員数の状況

(単位：人)

	平成28年度(第2期)	平成29年度	平成30年度	令和元年度
役員数	7	7	7	9
常勤	1	1	1	1
市派遣				
市職員OB	1	1	1	1
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	6	6	6	8
市兼任	1	1		1
市職員OB	1	1	2	2
他団体兼任	2	2	2	5
その他	2	2	2	
職員数	1	53	55	54
常勤	1	28	28	28
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員		26	27	28
他団体からの派遣	1	2	1	
非常勤	0	25	27	26
市兼任				
市職員OB		1	1	
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等		24	26	26
見直し等の取組み		職員転籍に伴い職員数の増加	臨時職員3名増加	・安定した財団運営を行っていくための役員(理事)機能の強化のため増員。 ・女性役員を配置するため増員(0人→2人)

(2) 職員の状況(市派遣職員を除く。)

(単位：人)

	平成28年度(第2期)	平成29年度	平成30年度	令和元年度
職員の状況	管理職		2	2
	一般職	1	51	53
	合計	1	53	55
年齢構成	20代以下		18	19
	30代	1	14	13
	40代		13	15
	50代		6	6
	60代以上		2	2
	合計	1	53	55

(3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	平成28年度(第2期)	平成29年度	平成30年度	令和元年度(予算)
報酬・給与等	7,516	220,037	226,450	228,672
内 市職員分	0	0	0	0
役員	3,344	4,821	4,873	5,178
常勤	2,980	4,470	4,470	4,473
内 市職員分				
非常勤	364	351	403	705
内 市職員分				
職員	4,172	215,216	221,577	223,494
常勤	4,172	165,133	166,841	169,178
内 市職員分				
非常勤		50,083	54,736	54,316
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員	2,980	4,470	4,470	4,473
常勤職員		6,351	6,179	6,042
見直し等の取り組み		職員転籍に伴い給与等が増加	臨時職員の賃金アップに伴い増加	ベースアップ分の増加

(4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系	有	予定時期 年度～
●	市の給与体系を準用	●	無
	その他〔 〕		その他〔 〕

4. 財務の状況

(1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		平成28年度(第2期)	平成29年度	平成30年度
一般正味財産増減の部	経常収益	4,852	676,241	681,832
	基本財産運用益			
	特定資産運用益			
	受取会費			
	事業収益	0	657,916	666,039
	自主事業収益		64,429	61,540
	受託事業収益		593,487	604,499
	受取補助金等・負担金	4,852	18,255	15,774
	その他経常収益		70	19
	経常費用	12,249	656,218	669,143
	事業費	12,249	654,967	667,994
	公益目的事業費	12,249	621,176	632,361
	収益目的事業費		33,791	35,633
	(自主事業費)		33,791	35,633
	(受託事業費)			
	法人会計			
	管理費		1,251	1,149
	評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 7,397	20,023	12,689
	評価損益等	0	▲ 5,147	▲ 4,125
	基本財産評価損益等			
	特定資産評価損益等			
	法人税・住民税及び事業税		▲ 5,147	▲ 4,125
	当期経常増減額	▲ 7,397	14,876	8,564
経常外収益		98,888	2,689	
経常外費用		98,888	2,689	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	▲ 7,397	14,876	8,564	
一般正味財産期首残高	7,397	0	14,876	
一般正味財産期末残高	0	14,876	23,440	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金			
	その他			
	基本財産評価損益			
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額			
	当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	10,000	10,000	10,000	
指定正味財産期末残高	10,000	10,000	10,000	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
基金期末残高	0	0	0	
正味財産期末残高	10,000	24,876	33,440	

(参考)

(別掲)人件費	7,516	220,037	226,450
役員分	3,344	4,821	4,873
職員分	4,172	215,216	221,577

(2) 貸借対照表

		平成28年度(第2期)	平成29年度	平成30年度
資産の部	資産の部合計	20,960	205,944	235,026
	流動資産	10,960	91,007	110,834
	現金預金	10,412	85,646	105,034
	未収金		4,207	4,587
	有価証券			
	その他流動資産	548	1,154	1,213
	固定資産	10,000	114,937	124,192
	基本財産	10,000	10,000	10,000
	特定資産		103,034	111,700
	その他固定資産	0	1,903	2,492
	有形固定資産		1,903	2,492
無形固定資産				
その他投資等				
負債の部	負債の部合計	10,960	181,068	201,586
	流動負債	10,960	81,602	91,266
	短期借入金			
	その他流動負債	10,960	81,602	91,266
	固定負債	0	99,466	110,320
長期借入金				
その他固定負債		99,466	110,320	
正味財産の部	正味財産の部合計	10,000	24,876	33,440
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	10,000	10,000	10,000
	うち補助金			
	(基本財産充当額)	10,000	10,000	10,000
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	0	14,876	23,440
	代替基金			
その他一般正味財産		14,876	23,440	
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)	0	3,568		
負債の部及び正味財産の部合計		20,960	205,944	235,026

(3) 市財政支出等の状況

(決算 単位：千円)

	平成28年度(第2期)	平成29年度	平成30年度
市財政支出等の合計	4,852	611,742	620,273
補助金	4,852	18,255	15,774
負担金			
交付金			
委託料	0	593,487	604,499
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免、建物の無償貸与等)			

(市財政支出等がある場合) 目的、内容、必要性、増減理由等

新潟市水族館における、適正かつ円滑に管理運営、飼育・展示の強化及び海洋河川文化の研究・普及啓発に取り組むためには、新潟市からの財政支出が必要である。

(4) 遊休財産の状況

(単位：千円)

	平成28年度(第2期)	平成29年度	平成30年度
純資産	10,000	24,876	33,440
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲ 10,000	▲ 10,000	▲ 10,000
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲	▲	▲
拋出者の意思に従って、使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	0	14,876	23,440

5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

(1) 財務の健全性

指標		平成28年度(第2期)	平成29年度	平成30年度
経常損益		▲ 7,397 千円	14,876 千円	8,564 千円
自己資本比率	純資産	47.7 %	12.1 %	14.2 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	100.0 %	111.5 %	121.4 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	100.0 %	92.4 %	86.4 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産	0 千円	14,876 千円	23,440 千円
	－資本金（基本金）			
公益目的事業比率	公益目的事業費	100.0 %	94.7 %	94.5 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	-	41.76	26.98
	遊休財産額			
資金運用	基本財産としての 有価証券の保有	有	① 運用方針を明文化し、それに従って運用している。 ② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。 ③ 資金運用に関する情報収集に努めている。 ④ 元本割れのリスクはない。	
		無		

(2) 団体の自立性

指標		平成28年度(第2期)	平成29年度	平成30年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	100.0 %	78.9 %	90.6 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	100.0 %	2.4 %	2.3 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	-	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

(3) 経営の効率性

指標		平成28年度(第2期)	平成29年度	平成30年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	0 千円	12,414 千円	12,110 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	▲ 7397 千円	281 千円	156 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	0.0 %	0.2 %	0.2 %
	経常費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	0 千円	24 千円	21 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	154.9 %	28.4 %	33.1 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	44.5 %	2.2 %	2.2 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況	
●	有 計画名称〔 中長期計画 〕 計画期間 平成30年度 ～ 令和4 年度
概要・数値目標 平成30年度から令和4年度までの財団及び水族館の計画を策定	
	未策定理由 無〔 〕

② 経理の適正化の取組み	
専門家による監事・監査役就任	専門家による会計指導
有	就任時期 年度～ 依頼先職種〔 〕
●	有 依頼時期 28 年度～ 依頼先職種〔 FUN税理士法人 〕
●	無

③ 事務処理改善の取組み	
●	有 取組内容 28 年度～ 〔 各種規程・規則の整備、会計システムの更新、各種講習会の参加など 〕
	無

④ 人材育成の取組み	
●	有 取組内容 29 年度～ 〔 財団の今後を担う人材（係長クラスを中心とした）向けのリーダーシップ・組織開発研修を実施 〕
	無

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況	
●	有 策定時期 28 年度～ 規定名称〔 (公財)新潟市海洋河川文化財団 情報公開規程 〕
	無 未整備理由〔 〕
	団体ホームページ掲載
	定款等 28 年度～
	事業内容 28 年度～
	役員名簿 28 年度～
	役員報酬 28 年度～
	事業報告 28 年度～
	正味財産増減計算書 28 年度～
	貸借対照表 28 年度～
	事業計画書 28 年度～
	予算概要 28 年度～

改善対応区分
A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
B:改善の取組の効果が始まっている
C:改善の取組に着手
D:改善の取組に向けて検討中
E:今は実施せず今後の課題とする

6. 経営改善状況 (個別の取組み)

(1) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

改善指示事項		事後に客観的な評価が可能な成果指標を設定した中長期計画の早期策定が必要である。指標設定においては、入館者数や入館者満足度等だけでなく、海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承など、団体の公益活動が市民にどの程度理解され評価が得られているか判断できる指標を設定する必要がある。						
改善・対応区分		A	●	B	C	D	E	
当該区分の理由		「学びのデザイン室」を設置したため。						
今後の具体的な取組み・対応方針等		中長期計画書を基に永続的に財団運営及び水族館の管理運営を行い、入館者から満足していただける施設作りに努めるとともに、水族館の活動を広くPRしていく。 具体的な取組み：HPでの活動紹介、学びのデザイン室の設置など						
工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度			
	新潟市民にとって魅力ある水族館運営の実施	—	プレゼント用年間入館券の販売数増加	プレゼント用年間入館券の販売数増加	年間入館券の販売数増加			
	最上級の接遇	—	内部研修の充実と職員間の情報共有	内部研修の充実と職員間の情報共有	同業他社への視察と職員間の情報共有			
	専門性の強化	—	アカムツの繁殖研究	アカムツの繁殖研究	アカムツの繁殖研究			
		—	遺伝的多様性の維持に配慮したペンギン個体群管理	遺伝的多様性の維持に配慮したペンギン個体群管理	遺伝的多様性の維持に配慮したペンギン個体群管理			
—	イルカ繁殖の基礎研究	イルカ繁殖の基礎研究	イルカ繁殖の基礎研究					
今後の改善・対応	改善指標・成果目標	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度			
	魅力ある水族館運営の実施	計画	指標・目標の設定	年間入館券：入館者全体の10%	年間入館券：入館者全体の12%	年間入館券：前年比5%増加		
		実績	指標・目標の設定	入館者全体の16.3%				
		進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 目標達成、今後も生物の成長や変化が体感できる展示を心掛け、年間入館券の販売数の増加に努める。					
	最上級の接遇	計画	指標・目標の設定	利用者満足度70%以上	利用者満足度前年比2%向上	利用者満足度前年比2%向上		
		実績	指標・目標の設定	利用者満足度97.9%				
		進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 目標達成、今後も高い満足度をキープできるように努める。					
	成果指標	魅力ある水族館運営の実施	計画	指標・目標の設定	育成オスからの採精技術の開発	育成オスの受精能力の	育成メス成熟条件の調査	
			実績	指標・目標の設定	人工育成した3歳の雄14尾から採出法による採精を試み、10尾から精子を得た。このことから、3歳齢で成熟することが確認された。			
		進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 ・成果あり。今後も計画通りアカムツの繁殖研究に取り組んでいく。					
専門性の強化		計画	指標・目標の設定	飼育個体数の減少を最小限に抑えた世代交代	飼育個体数の減少を最小限に抑えた世代交代	飼育個体数の減少を最小限に抑えた世代交代		
		実績	指標・目標の設定	血縁のないペアから12羽を育成し、昨年度末より8羽増加				
		進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 ・成果あり。今後は、血統更新のため、血縁のない他施設との交換を検討する。					
		計画	指標・目標の設定	カマイルカ精子の保存、輸送に向けた準備	カマイルカ精子の保存、輸送方法実証	カマイルカ精子の他園館への提供		
実績	指標・目標の設定	採精後、冷蔵輸送後凍結、解凍後の精子活性確認を実施。						
進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 30年度は、2回4検体で行ったが、活性は低かった。今後は、輸送前処理による活性の変化を調査するとともに採集当日に凍結も視野に入れて引き続き、凍結後も高い活性化が維持できる手法を見いだすべく研究を行う。							

改善指示事項		職員の高齢化に対応した計画的な人員配置を行う必要がある。					
改善・対応区分		A	●	B	C	D	E
当該区分の理由		平均年齢が下がったため					
今後の具体的な取組み ・対応方針等		定年退職、普通退職した場合、若手職員を採用し、世代交代を図り、持続可能な財団運営・水族館運営を行っていききたい。 具体的な対応：平成31年4月から20代2名採用					
今後の改善・対応	実施事項		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	計画的な人員配置		・高齢化等による実労働者の補充	・文化政策課と協議 ・予算要求	・文化政策課と協議 ・予算要求	・採用試験実施	
	活動指標・成果目標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	成果指標	計画	増：職員1名、臨時3名 減：職員1名	増：職員1名 減：出向1名	増：職員2名 減：出向1名、嘱託1名		
		実績	増：職員1名、臨時3名 減：職員2名	増：職員1名 減：出向1名			
計画的な人員配置		【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 計画通り採用している。今後も退職などの欠員が生じた場合は、若手を中心に採用していききたい。					
進捗状況							

改善対応区分
 A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
 B:改善の取組の効果が始まっている
 C:改善の取組に着手
 D:改善の取組に向けて検討中
 E:今は実施せず今後の課題とする

(2) 【その他改善を要する事項】の改善状況

① 今後の改善・対応	今後改善を要する事項	公益財団法人の維持・継続					
	改善・対応区分	●	A	B	C	D	E
	当該区分の理由	安定的に利益を確保しつつ、財務3要件を達成しているため。					
	今後の具体的な取組み・対応方針等	財務3要件を満たしたうえで、安定的な利益確保に努める。 具体的な取組み：収益に応じた経費配賦と収益事業の増収（レストラン及び売店でクレジットカード利用可）					
	工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		安定的な利益確保	・収益に応じた経費配賦 ・水族館の管理運営継続	・収益に応じた経費配賦 ・水族館の管理運営継続	・収益に応じた経費配賦 ・水族館の管理運営継続	・収益に応じた経費配賦 ・水族館の管理運営継続	
	財務3要件の達成	適正な財務管理	適正な財務管理	適正な財務管理	適正な財務管理		
	成果指標	改善指標・成果目標	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		安定的な利益確保	計画	純利益1千万円	純利益1千万円	純利益1千万円	純利益1千万円
			実績	純利益1千百万円	純利益850万円		
進捗状況			【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 ほぼ計画通りに利益を出している。今後も安定的な利益確保に努めたい。				
財務3要件の達成	計画	・収支相償を満たす ・公益目的事業比率50%以上	・収支相償を満たす ・公益目的事業比率50%以上	・収支相償を満たす ・公益目的事業比率50%以上	・収支相償を満たす ・公益目的事業比率50%以上		
	実績	・収支相償を満たす ・公益目的事業比率94%	・収支相償を満たす ・公益目的事業比率94%				
	進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 計画通りの成果であった。今後も公認会計士など専門家の指導、アドバイスを受けながら適正な財務・会計処理を行う。					

今後改善を要する事項		2年後（平成31年度）の新潟市水族館の指定管理者へ再指定					
改善・対応区分		●	A	B	C	D	E
当該区分の理由		指定管理者の再指定を受けたため					
今後の具体的な取組み・対応方針等		5年間適正な管理を行い、5年後の指定管理に向けた準備も進めていく。 具体的な方針：今後、次期指定管理に向けた指定管理戦略会議を再始動する。					
② 今後の改善・対応	工程	実施事項	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		永続的な指定管理の指定	指定管理戦略会議を発足	提案書、プレゼン資料の作成	選定結果の分析		
		改善指標・成果目標	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	成果指標	永続的な指定管理の指定	計画	水族館の適正な管理運営	指定管理の再指定	水族館の適正な管理運営	水族館の適正な管理運営
			実績	水族館の適正な管理運営	指定管理の再指定		
		進捗状況	【30年度までの達成状況及び今後の見込み】 計画通り再指定を受けた。5年間適正な管理を行い、5年後の指定管理に向けた準備も進めていく。				

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

財務の健全性	指定管理料・運営補助金ともに年度末精算であり、余剰金及び欠損金も発生せず、財務は健全に保たれている。
団体の自立性	(公財)新潟市開発公社との2ヶ年の共同事業体での水族館の管理も昨年度で終了した。 2019年度からは単独で5年間新たな指定管理期間がスタートした。 財団としては、すべての職員が転籍し、財政面においても、平成29年度から每期、黒字決算となり、自立性の高い財団へと成長し続けている
経営の効率性・適正性	各種規程の策定、講習会への参加、外部の専門家（顧問弁護士、公認会計士、社会労務士）の指導・助言に基づき、効率性かつ適正性は十分に保たれている。
その他	
総括的な所見	
財団の業務状況も良好で、財政面及び水族館の管理運営面ともに特段の問題がない。また、中長期計画の予定通り成果（結果）は出ているため評価できる。	

【所管課による評価】

現状に対する評価	活動目標をほぼ達成できていること、財政面が健全に保たれていることは大いに評価できる。
課題及び改善すべき事柄	調査研究活動を含めて、事業内容の充実及びその広報を強化し、魅力発信による集客向上に取り組んでもらいたい。
今後の指導方針	入館者数及び入館料収入が減少傾向にあるので、引き続き魅力発信の工夫に努め、増加に向けた取組を実施していただきたい。

【総合評価】

概ね良好	改善の余地がある	改善が必要	抜本的な対応が必要
総括的な所見			
改善指示事項			

【総合評価を受けての団体としての決意】

--

【総合評価における改善指示事項への対応方針】

改善指示事項					
今後の具体的な取組み ・対応方針等					
今後の改善・対応	実施事項・計画	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	工程				
成果指標	改善指標・成果目標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	計画				
	実績				
	計画				
	実績				